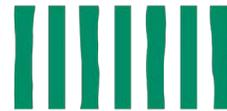


2026年3月16日

ランドスケープアプローチによる森林の多面的機能の発揮を通じたネイチャーポジティブ社会への移行

市町村を基にしたネイチャーポジティブの実践 『日本版ネイチャーポジティブアプローチ』



日本自然
保護協会

The Nature Conservation
Society of Japan

公益財団法人日本自然保護協会

出島 誠一



2030年ビジョン

：日本の生物多様性を回復基調に導く社会変革を地域から起動する

- 創立1951年
- 理事長 土屋俊幸 (東京農工大学名誉教授)
- 会員・サポーター数：74,638人 (2023年度末)
- 連携企業数：320社以上
- 事業
 - ・ 自然保護事業
 - ・ 教育／連携事業
 - ・ ネイチャーポジティブ事業
(日本版NPA／絶滅危惧種保全／赤谷プロジェクト／モニタリングサイト1000里地／海)

なぜ「ランドスケープアプローチ」？

- 生物多様性はランドスケープで成り立っているから

森林・溪流・河川・海・ため池・農地や水田・住宅地や工場等のそれぞれの機能だけではなく、これらの配置や繋がり、社会的・文化的な条件等によって、地域の生物多様性が成り立っている。

なぜ「市町村」？

- ネイチャーポジティブを実現するためには統合的な取組が必要だから

NPの実現においては、生物多様性の保全と、社会経済活動、気候変動対応、地域課題解決の統合的な取組が求められている。「地域の未来像」に向けて、統合的な取組ができる主体として市区町村を重視。



日本版
ネイチャーポジティブ
アプローチ

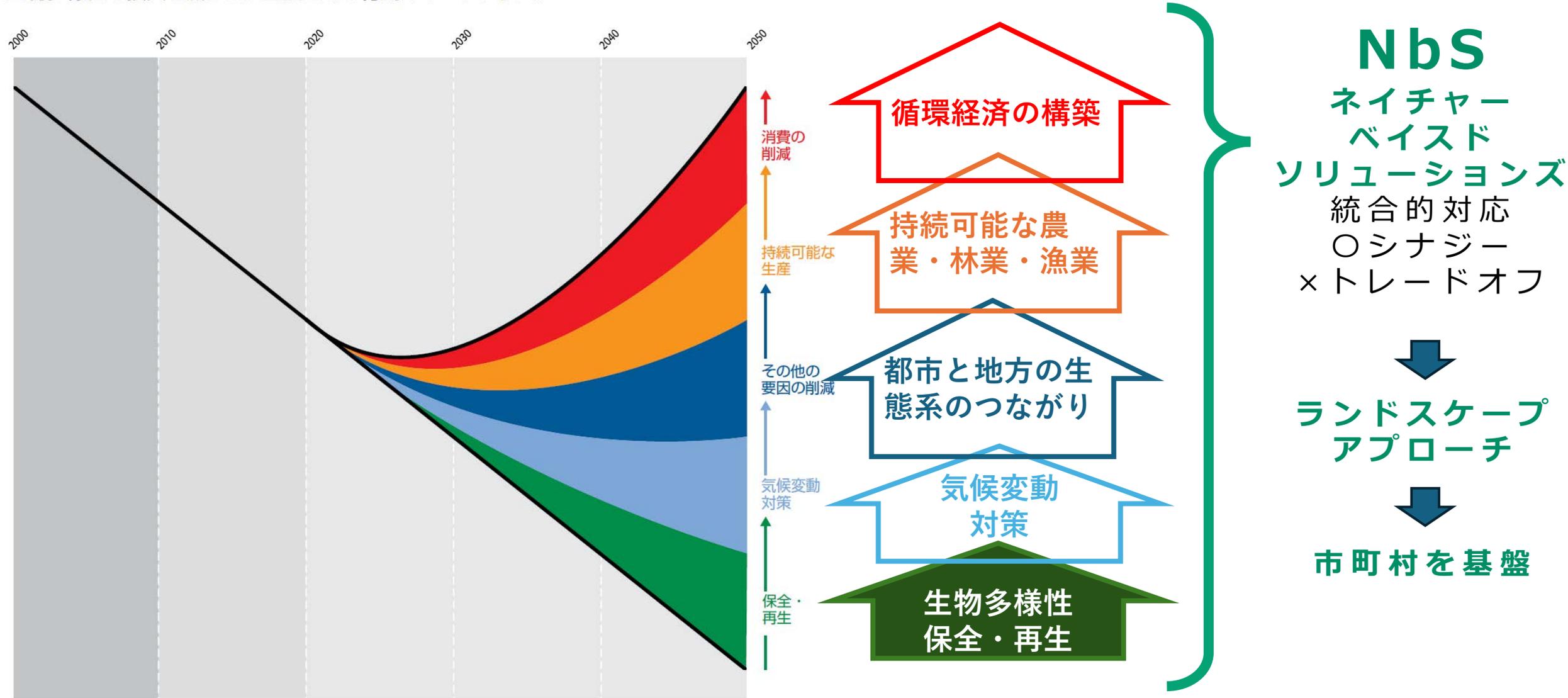
市町村を基にしたネイチャーポジティブの実践

『日本版ネイチャーポジティブアプローチ』

(2023年5月発表)

『ネイチャーポジティブ』を実現するためのNbS (自然をいかした社会課題解決)

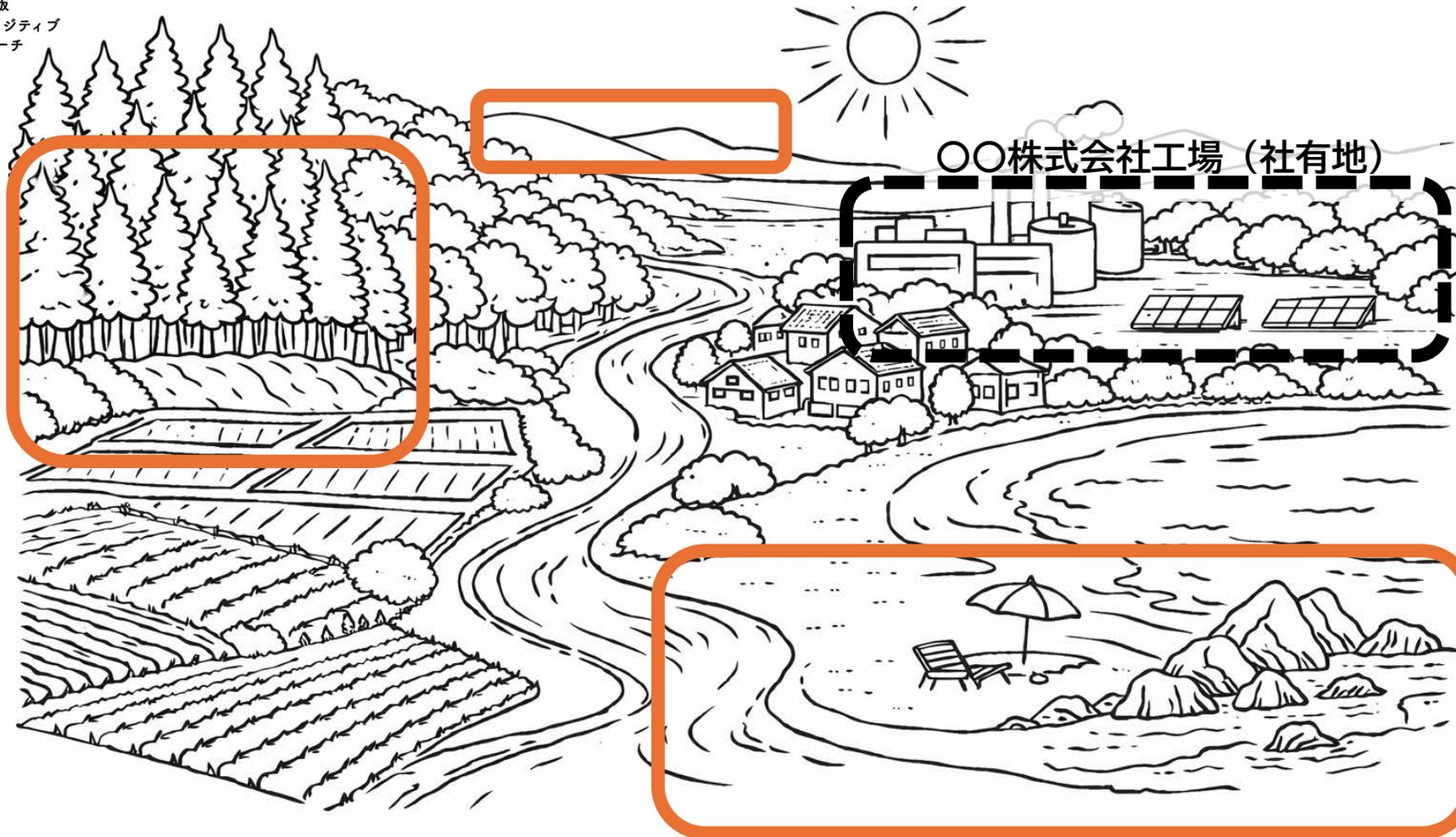
生物多様性の損失を減らし、回復させる行動のポートフォリオ





日本版
ネイチャーポジティブ
アプローチ

なぜ「ランドスケープアプローチ」「市町村」？



生物多様性
重要地域

- NPの実現には『生物多様性重要地域』における保全上の課題に対応することが最重要。
- ランドスケープで見なければ『生物多様性重要地域』は把握できない。
- ランドスケープの範囲は、狭すぎても、広すぎても課題がある。
- 地域の生物多様性は、地域が実現したい未来像との関連が深い。

日本版ネイチャーポジティブアプローチ

地域を基盤にしたネイチャーポジティブの取組を、**市町村、企業、団体の皆様と連携**して推進します。本取組は、4つのステップを通じて段階的に進めていきます。

- 1 地域の生物多様性の現状を評価し、重要な場所や課題を明確化する。
- 2 現状評価に基づき、ネイチャーポジティブに向けた目標と施策、指標を検討する。
- 3 施策の具体化に向けて、関係者と合意形成を図り、取組を進める。
- 4 施策や取組の定期的なモニタリング、評価、改善していく。



ネイチャーポジティブ 支援プログラム



日本版
ネイチャーポジティブ
アプローチ

『日本版ネイチャーポジティブアプローチ』
を实践する **自治体** と **企業** への支援プログラム

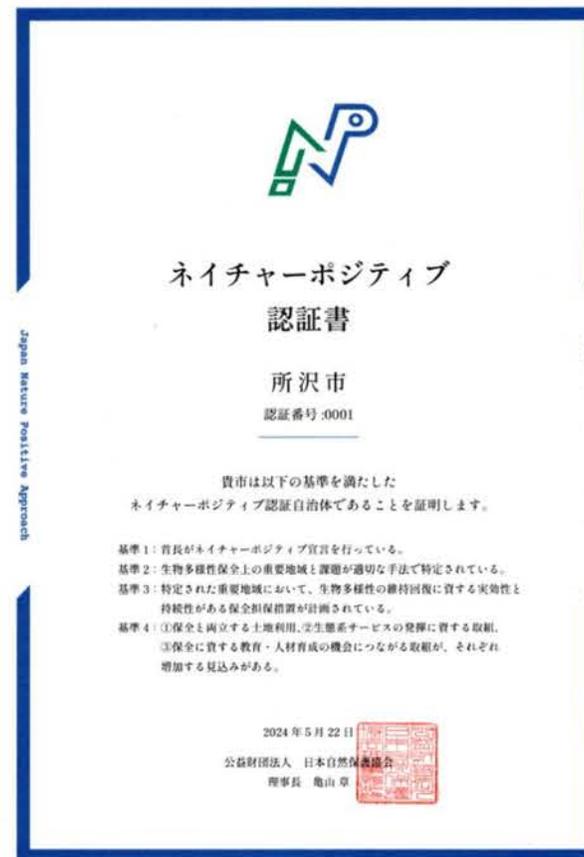
地域と企業とのパートナーシップによる取組を推進



市町村の認証制度

生物多様性保全に関する計画等を策定し、ネイチャーポジティブに向けた取組を進めている市町村を、認証基準に基づいて日本自然保護協会が認証します。

- 基準Ⅰ** 首長がネイチャーポジティブ宣言を行っている
- 基準Ⅱ** 生物多様性保全上の重要地域と課題が適切な手法で特定されている
- 基準Ⅲ** 特定された重要地域において、生物多様性の維持回復に資する実効性と持続性がある保全担保措置が計画されている
- 基準Ⅳ**
 - ①保全と両立する土地利用
 - ②生態系サービスの発揮に資する取組
 - ③保全に資する教育・人材育成の機会につながる取組が、それぞれ増加する見込みがある



所沢市HPより



日本版
ネイチャーポジティブ
アプローチ

『日本版ネイチャーポジティブアプローチ』
を実践している自治体（11市町村）

エントリー自治体

南三陸町（宮城県）

只見町（福島県）

みなかみ町（群馬県）

所沢市（埼玉県）

横須賀市（神奈川県）

小田原市（神奈川県）

秦野市（神奈川県）

妙高市（新潟県）

甲賀市（滋賀県）

尾鷲市（三重県）

唐津市（佐賀県）

市町村を募集中！！

2030年までに60自治体を目指しています。

支援・活動を客観的に評価

ネイチャーポジティブを目指して生物多様性保全活動に取り組む企業には、市町村の目標設定と、世界の目標設定（GBF）に即して、活動の貢献を日本自然保護協会が評価します。



「貢献証書をお渡しした企業さま」

株式会社NTTドコモ

株式会社ゴールドウィン

JESCOホールディングス株式会社

株式会社日清製粉グループ本社

日本生命保険相互会社

三菱地所株式会社

『日本版ネイチャーポジティブアプローチ』
を实践したい企業を募集中！

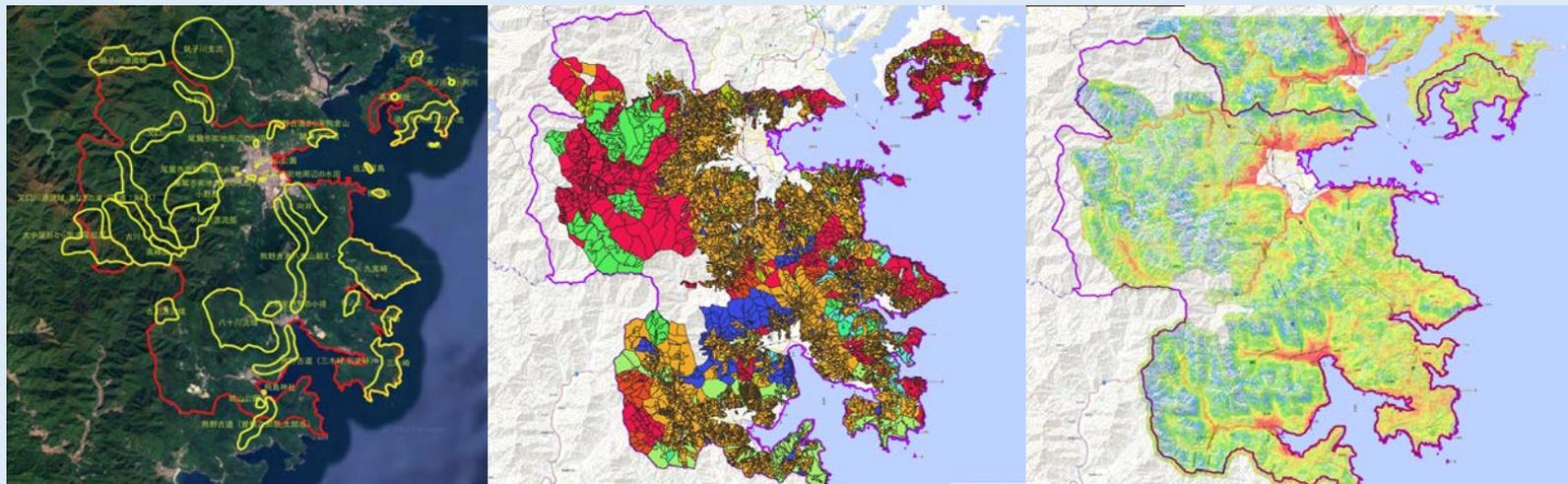
取組事例：ゴールドウイン（富山県小矢部市）

■ 取組とその成果

- 市全体の重要地域評価を実施
 - ⇒地域におけるゴルフ場の相対的価値が評価できた。
 - ⇒地域の専門家との協力関係が構築できた。
- 敷地内の天然記念物の湿地の自然再生を実施
 - ⇒県・市役所や森林組合等との協力体制ができた。
 - ⇒地元集落との関係が強化できた。
- ゴルフ場の自然再生と自然共生サイト登録



取組事例：尾鷲市×複数企業



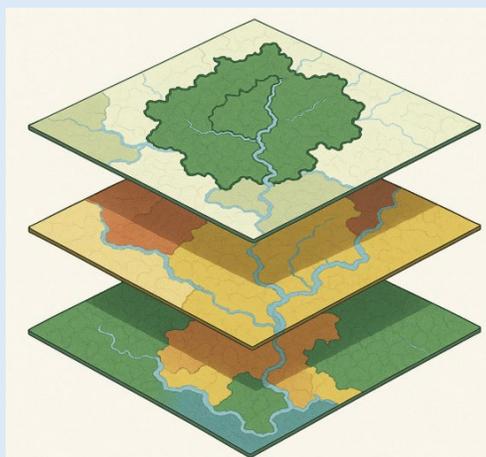
■ 企業とのコンソーシアム

- 炭素・自然・教育の課題解決に興味をもつ複数企業と連携

■ NPによる森林の価値化

- 森林Jクレジットを取得済み。
- 人工林の自然再生を進め、評価し、NPの価値を付加。

複数データを
地図化



ゾーニング地図により以下を特定

- ・生物多様性や森林機能の保全を優先すべき場
- ・自治体も管理に関与すべき民有林
- ・自然共生サイト登録や自然再生の効果が高い場
- ・CクレジットにNPの価値を上乗せしやすい場所
- ・民間活動に積極的にゆだねる場

「日本版ネイチャーポジティブアプローチ」の実践ガイドを公表

みなかみ町×三菱地所×日本自然保護協会での実践を基に、
以下を収録した実践ガイドを公表！（2025年8月）

- ネイチャーポジティブの実現に向けた効果的な4つのステップ
- 生物多様性などの現状評価の手法
- NbSの施策検討の具体的手順
- 市町村レベルでのネイチャーポジティブの目標設定の項目(指標)案
- 生物多様性の回復傾向評価における指標種選定の指針



<https://www.nacsj.or.jp/media/2025/08/53196/>



日本版
ネイチャーポジティブ
アプローチ

地域のネイチャーポジティブ に向けた実践ガイド

～みなかみ町での生物多様性の定量的評価と
NbS計画づくりの実践例～

2025年8月

発行：公益財団法人日本自然保護協会

協力：みなかみ町、三菱地所株式会社